甲賀市わかもの会議
令和８年度提言書



令和８年10月23日

甲賀市 わかもの会議

はじめに

わかもの会議は、甲賀市総合計画第３期基本計画に掲げる重点目標の「若者・子育て世代に選ばれるまち」を実現するために、市政に対して、若者目線によるアイデアや意見をいただくことを目的として設置された会議体です。

令和８年度においては、「広報と広聴」をテーマに、若者世代の視点から「市から市民へ情報を届ける（広報）」と「市民から市へ意見を届ける（広聴）」について議論してきました。

若者が市の情報を日常的に受け取り、自らの意見を市政に反映できる仕組みづくりに向け、提言します。

市から市民へ情報を届ける「広報」

若者に伝わる情報発信の強化　・・・　p.2

市民から市へ意見を届ける「広聴」

若者の声を聴く仕組みの改善　・・・　p.4

本日までの流れ

７月７日　　第１回会議

- Instagramを活用した新たな情報発信

について議論



８月19日　　第２回会議

- 若者の声が届く広聴
- こども・若者の権利

について議論



10月７日　　第３回会議

- 提言書の作成



【 広報 】若者に伝わる情報発信の強化

1．現状



・甲賀市では、広報紙・ホームページ・LINE等を活用し、市政情報やイベント情報、防災情報などを発信しているが、**SNSを中心に情報を取得する若者世代に情報が届きにくい。**
・行政の情報発信は制度説明やお知らせが中心になりやすく、**市の魅力が伝わりにくい。**
・行政による一方向の情報発信だけでなく、**市民・事業者等と連携し、多様な視点から地域の魅力を発信していく仕組み作りに向けたアイデアがほしい。**

2．委員の意見

・情報発信は、**文章を最後まで読まない前提で設計すべき**であり、目に留まる工夫が求められる。
・行政の情報発信は、**発信することが目的に**なっていて、受け取り手に伝わる内容になっていない。
・行政の情報は命や生活に関わる大事なものだからこそ、情報の正確さだけではなく**「必要な人に届き、理解され、行動できるか」まで考えて発信するべき**である。
・**市の公式アカウントをフォローしていることが周囲に知られることに抵抗感がある。**

【 広報 】若者に伝わる情報発信の強化

３．わかもの会議におけるアイデア

・市の広報担当者が、**市民の興味を引き、正しく伝わる情報発信スキルを身に着ける。**
・行政の強みである**情報の信頼性を活かしつつ、市民・事業者と協力して、より幅広い層に届く情報発信を行う。**
・**公式ハッシュタグ**を作り、市公式のInstagramを**フォローしていない市民にも情報が届くようにする。**
また、**市民が自由に投稿できるような仕組み（フォトコンテストの開催等）**や、**市民が記者のように身近な情報を発信できるような仕組み**を作り、地域のリアルな情報を集めて発信する。
・「誰に・何を・どう届けるか」を見極め、**ターゲットや目的に合わせた最適な媒体・手法を使い分ける。**





４．わかもの会議からの提言

・行政と市民・事業者等の強みを掛け合わせた**官民共創型の情報発信体制を構築**する。
・幅広い層に必要な情報が伝わるよう、**最適な媒体・手法の使い分けを工夫**する。



【 広聴 】若者の声を聴く仕組みの改善

1．現状

【若者の声が届く広聴編】甲賀市では市民意識調査・パブリックコメント・市政への提言・タウンミーティング・会議体での意見聴取等で市民の声を聴いているが、どの手法も**若者の参画率が低い**。
【こども・若者の権利編】子どもの権利条約等に基づき、「意見を表す権利」を保障するために、**こども・若者の意見を聴取する場が必要であるが、そのような場が少ない**。



2．委員の意見

・市の意見聴取（アンケート調査等）はデータを集めること自体が目的になっている可能性があり、**市民側に“まちを良くするためのコミュニケーションの場”という実感が湧いていない**。
　→ **目的やビジョンへの共感と、「自分の声でまちが変わった」という手応え**こそが、アンケート回答の謝礼といった物的な報酬よりも**本質的な参画動機になり得る**。
・行政が本音を引き出すための**環境を整えることで、こども・若者の「意見を表す権利」を保障することができる**。
・より多くの意見を広く平等に吸い上げるためには、**日常の動線上に市政への意見を伝える場・方法が必要**である。

【 広聴 】若者の声を聴く仕組みの改善

3．わかもの会議におけるアイデア

・**目的やビジョンをキャッチーに明示**し、市民が共感し「力になりたい」と思える広聴を実践する。
・**意見が市政にどのように反映されたかをフィードバックする。**
・すぐ全体結果が見える**リアルタイム集計を導入し、参画している実感（ライブ感）を持たせる。**
・意見を伝える方法を知らない層に対し、**学校やSNSを通じて「意見を表す権利」と伝え方を周知する**とともに、**複数回のリマインド**を行うことで、**日常の中で市政に参画できる機会を広げていく。**
・「心理的安全性の高い空間」をモデルとした**少人数ワークショップを開催する**とともに、**日常生活の動線上で何かのついでに声を届けられる仕組みを構築する。**





4．わかもの会議からの提言

・現状の問題は、**市民が市政に積極的に参画する動機を十分に提供できていない**ことにあり、それに対して２つの手段を提案する。
　① 意見聴取の際には**目的やビジョンをわかりやすく明示**し、市民が**主体的に回答したくなる動機付けを行う。**
　② 「自分の声には価値がある」と実感できるよう、**市民から受けた意見が市政へ反映された結果をわかりやすくフィードバックする。**
これらの手段によって、**市民は市政に参画している実感を持つことができ、長期的な参画率の向上にもつながる**と考えられる。
・市政に関心の低い**若者がいきなり意見表明を行うのは難しい**ため、まずは、**意見表明以前の小さなかかわりの機会を創出・発信する。**この小さなかかわりの積み重ねが市への親しみを生み、**将来的に市政への関心や提言へとつながるような参画の仕組みを構築する。**



おわりに

今回の提言は、広報・広聴のいずれにおいても、**行政と市民が互いに協力し合う体制**こそが、これからの甲賀市の未来をつくる基盤になるという確信に基づいています。

広報においては、行政の「信頼性」と市民の「発信力」を掛け合わせること。広聴においては、行政の「ビジョン」と市民の「想い」を共鳴させること。

このように、一方向の発信や聴取ではなく、双方がパートナーとして手を取り合い、**ともに情報をつくり、ともにまちをつくっていく姿勢**が今求められています。

若者が当たり前に市政に参加し、自分たちの声がまちを変えていく実感を持てる。

そんな**「行政と市民の協力体制」が当たり前になる甲賀市**を、私たちは目指しています。

